

2025 年 11 月 26 日

山形県知事 吉村美栄子 様

日本共産党山形県委員会
委員長 本間 和也
県議団 団長 関 徹
石川 渉

緊急の安全対策を始め、適切な保護・管理で クマと人が真に共生する地域づくりを求める要請書

県政発展のためのご尽力に敬意を表します。

過去に例を見ないクマの出没で、かつてなく多くの人身被害が発生し、県民の安全が脅かされると共に、イベント等の中止、野外作業や外出など日常生活の制限がおこなわれ、子どもの健全な生活から高齢者の健康維持まで軽視できない影響も広がっています。

これに対し、警察を含む県・市町村の対策はもちろん、猟友会等民間の献身的な取り組みがおこなわれていますが、猟友会を始めとする人手不足、緊急銃猟への不安、資材と資金の不足等多くの意見・要望が寄せられています。

クマの個体数と被害の関係、生態・行動の変容、従来の対策の効果、クマ撃退スプレーの選別・使用方法、今後の見通し等々、様々な情報が溢れる中で、正しい情報を提供する事も切望されています。

隣の秋田県では、前回大量出没した時に比べても今回更に人身被害が増加していると聞いていますが、本県でも、冬眠が遅れる・冬眠しないクマの発生や、人の生活領域で採餌行動を繰り返すクマの引き続きの増加等々、これまでと異なる状況が発生している中で、クマの個体数調査のあり方、捕獲の担い手等、第4期県ツキノワグマ管理計画の点検・補強等も求められていくものと思われます。

そのためには、専門家の最新の知見を集める事は勿論、野生鳥獣の専門家としての職員を配置し、捕獲等の作業にも県が直接責任を負うと共に、県として知見を蓄積しながら、対策全体の進行を管理できるようにする事が重要と考えます。

クマと人が真に共生し、人身被害・農業被害を抑制できる、総合的な保護・管理の推進を求めます。

同時に、当面、何よりも県民の安全を確保する対策が緊急・重大課題です。

人の生活域へのクマの侵入防止とクマとの遭遇回避の取り組みを抜本的に強化し、遭遇時の対処方法等も含めて必要な情報を地域に行き渡らせる事が求められます。駆除体制の確保・強化も急がれます。

扨って、貴職におかれまして、県民のいのちと暮らしを守るため、下記の事項について取り組まれるよう要望を行います。

記

①県民への正しい情報の周知強化を

- クマの生態・習性、クマを誘引しない、クマに遭遇しない、遭遇時の対処、今後の見通しなどについての正確な情報を収集・提供すること。
- 出没情報等デジタルでの即時の提供を充実させるとともに、デジタル情報にアクセスできない住民も含めて地域に行き渡らせるため、「県民のあゆみ」等あらゆる媒体を使っておこなうこと。
- 専門家による県民向け講演会等の開催や講師派遣を強化すること。

②緊急銃猟、鳥獣被害対策実施隊、見回り等への支援を

- 緊急銃猟、鳥獣被害対策実施隊、市町村の巡回などに必要な資材（防護具、箱罟、クマ撃退スプレー、ガソリン等）の購入支援、作業人員確保、活動の危険度・困難度にふさわしい報酬の上乗せ支援を行うこと。県として資材提供、人員派遣を検討すること。
- 緊急銃猟は、判断手順を始め、方法を分かり易く提示し、市町村がいつでも実施できるよう確認すること。
- 麻酔銃等を扱える人材を育成・配置すること。
- いわゆる「ガバメントハンター」のような行政の新たな人材を、駆除のみならず保護・管理もおこなう事を視野に、確保・育成すること。

③クマに遭遇しない対策、クマを誘引しない対策を

- 監視カメラ、ドローンの活用、電気柵、不要果樹の伐採、柿の木等にトタンを巻くなどに係る費用の支援策を充実させること。
- 子どもの登下校のバスやタクシー借上げ支援、音でクマに人の存在を知らせる適切な機器、クマスプレー等の確保等の支援を行うこと。
- 緩衝地帯整備・機能強化の予算を充実させること。
- 県管理河川の支障木(胡桃などの堅果類の木も含む)撤去と藪の刈り払い、高速道路ののり面の刈り払い等、侵入防止対策をさらに強化すること。国管理河川の管理の徹底を国に求めること。県サイクリングロード(間沢～山寺)の堅果類等の伐採をおこなうこと。
- 市街地等への侵入ルートを把握・推定し、侵入防止対策を行うこと。
- 当面、排除地域・防除地域に止まらず、緩衝地域でも捕獲・駆除を強化すること。錯誤捕獲の場合も必要に応じて駆除を実施すること。学習放獣を計画的に進める事。
- 地域・集落に応じた適切な対策を専門家の指導の下に、住民がおこなうこれまでのモデル事業を必要とする全地域・集落に広げる事。
- クマの隠れ場所や侵入ルートとなり得る空き地・空き家の草木や、所有者不明等で対処できない不要果樹等について、所有者への働きかけと事業費補助の拡充、不用果樹の譲渡・栽培委託にインセンティブを与えて進める事。行政等が代執行できる仕組みづくりを検討すること。
- 林業支援のための諸事業費、中山間地域等直接支払、多面的機能支払交付金を抜本的に拡充する等、中山間地の農林業の活性化を図ること。

④野生鳥獣の科学的な調査の充実、専門家の県職員の配置・育成を

- 「クマを減らす必要があるのか」との疑問が寄せられている。疑問に答えること。
- 兵庫県森林動物研究センター等先進とされる事例を参考にして、専門性の高い効果的な取り組みの推進を図ると共に、専門職員の育成を図る事。
- 対策の出発点となるべき精度の高い個体数調査と大量出没の要因等現状分析を行う事。そのために十分な予算と県職員の人員配置を行うこと。
- 山形県ではクマに関しての専門的知見を有する職員は1人(R6)となっている。少なくとも本庁・各総合支庁に配置し、取り組みを司る役割を与えること。
- 専門機関・専門職員の配置を求めるので。事例分析はその役割の一つとして言わずもがなです。
- 行革プランで、「定員管理は、新たな行政課題にも的確に対応できるよう、スクラップアンドビルド」が基本とされるが、クマ対策の影響で職員を減らすことのないよう職員の純増を行うこと。

以上